

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームつつじ 第一ユニット	評価実施年月日	平成22年2月1日～平成22年2月20日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年2月25日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>独自の運営理念の他に五つのポリシー(方針)が決められており、それに沿ってサービスを提供している</p>		<p>運営理念の中に地域に根ざした文言を加えた</p>
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>運営理念を玄関先など、職員の目の止まる所に貼っている。内部研修の中でも再確認して実践出来るように努めている</p>		<p>日々の生活の中で理念を念頭に置き、今後も実践していきたい</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>玄関先やフロアの入り口など、目の届きやすい所に掲示しており、入居の際にも説明している。また運営推進委員会などにおいても理解してもらえるように説明し取り組みを行なった</p>		<p>運営推進委員会の中で日々の暮らしや取り組みについての報告をお写真を見て頂きながら行い、意見交換している。今後も地域との交流の場を大切にしていきたい</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩時などに近所の方にご挨拶している。中庭では近隣の施設の方々もベンチで自由に休まれており、ホームの夏祭りにも参加して下さる方もいた</p>		<p>小学校の運動会に出掛けたり、雪明りの路では地域の小学生たちがボランティアでオブジェ作りに来て下さった。今後もお互いの行事に参加する機会を継続し、関係を深めていきたい</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域のお祭りでは子供神輿がホームに来て下さった。また、幼稚園児が遊びに来てくださり、歌や踊りの披露・メッセージカードのプレゼントがあり、楽しく交流できた</p>	○	<p>地域との交流や取り組みについてお写真を見てもらいながら、運営推進委員会の中で、意見交換している。民生委員さんより、子供会の活動を教えていただいたので、今後は交流の機会を持ちながら、関係を大切にしていきたい</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>運営推進委員会の中で、インフルエンザや便秘、呼吸法についての勉強会を開催した</p>		<p>今後も研修会などへ参加した時には運営推進委員会の中でお伝えし、情報を共有できるようにしていきたい</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価や外部報告書に基づき職員全員が十分に話し合いを行なっている。評価後の足りない部分については改善計画シートを作成し、具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	改善点を把握・補い、より良いホーム作りに努めていきたい
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>2ヶ月に1回、運営推進委員会を開催して、地域の方やご家族と話し合う場を設けている。そこで出た意見をサービスの向上に活かしている</p>		運営推進委員会の中で、自己評価・外部評価についての報告を行なっている。改善に向けた取り組みを今後も意見交換しながら、サービス向上に活かせるよう努めていきたい
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>電話にてアドバイスを受けたり、窓口で相談している</p>		市町村と共にサービスの質の向上に取り組めるよう努めていきたい
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>運営推進委員会で、地域包括支援センターの職員より、成年後見人制度についてのお話を聞く事ができた。内部研修の中でも学ぶ機会を持つたが、活用までには至っていない</p>		機会があれば活用したいと思う。今後も権利擁護に関する制度の理解に努めていく
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>身体拘束については定期的に委員会を開催している。身体拘束や高齢者虐待防止については職員が熟知出来るように内部研修でも学ぶ機会を作り取り組んでいる</p>		今後も虐待防止の徹底に努めていきたい
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>サービス提供前に契約書、重要事項説明書などを説明し同意を頂いている。また、解約時には十分に話し合いを行い、不安を少なくしていただき、納得のいく退去先に移れるように支援している</p>		退去の際には不安のないように十分な説明を行い、理解、納得を図るようにしている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご意見や苦情、不安に思っていることをさりげなく声をかけて伺うようにしている。また、ご家族からもご利用者の情報を都度、お伺いするようにして解決に向け取り組んでいる		個別にご意見やご要望を尋ねるようにしている。利用者様の思いを受け止め、今後も安心してサービスの利用が行なえるように努めていく
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時に健康状態や暮らしぶりについてお話したり、来られない方のために電話で報告を行ったりしている。2ヶ月に1度、ホームでの暮らしぶりをお便りでお知らせしており、金銭管理ではお小遣い帳を作成し、収支を明らかにしている		運営推進会議や面会時などにアルバムや作品などを見ていただきながら、暮らしぶりを継続して伝えていきたい。ホーム便りの発行も年2回から季節ごとの4回に増やしている
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	市や国保連等の外部機関の説明をしたうえで管理者及び、職員にも窓口があることをお知らせしている。意見箱や面会簿の記入欄を利用し気軽に書いていただけるようにお伝えしている		運営推進委員会においてもご意見を伺い、運営に活かしている。苦情が出た際には速やかに苦情相談簿に記入の上、検討・改善するように取り決めている
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	個別に意見や提案を聞いたり、定期的に会議を開き、意見交換の場も設けている		直接介護をしている職員の声を重視して、運営に反映できるよう努めていきたい
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	業務に支障が出ないように勤務調整を行なった。対応が出来るようにプラスの職員を確保するよう心掛けている		ヘルパー資格を持つ事務職員や看護師免許を持つ職員が手伝いに入ることもある
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動については代わる職員と時間を重ねるようにして、利用者のダメージを防ぐように努力している		異動は最小限にとどめているが、その際には利用者さんの不安な思いを受け止め、安心出来るように今後も関わりの時間を持ち対応していく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>内部研修は年間計画書を作成しており、段階に応じて外部の研修にも参加できるようにしている。資格取得の為に、勤務を調整するなどして職員育成に努めている</p>	○	資格取得を目指すように勧め、テキストや勉強方法についてアドバイスを 行なったり、介護福祉士の実技試験の勉強会を開催するなど、職員のス キルアップに努めている。今後も内部、外部研修を充実させ、各自が向 上していけるように努めていきたい
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>他のグループホームの見学や、外部研修などを通して同業者と交流している</p>		今後も同業者との交流を深められるように努め、サービスの質の向上に 取り組んでいきたい
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>職員同士の親睦は図られており、業務上の悩みはいつでも話し合えるようにしている</p>		お食事会などを開き、相談しやすい雰囲気、環境を作った。また、各フロ アの管理者などが集る機会があり、お互いに相談し合っている
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>それぞれの職員が能力を発揮できるようにと努めており、段階に応じて外部研修で学ぶ機会も作っている。また、ヘルパーや介護福祉士などの資格取得についても勧め、社員登用の制度もある</p>	○	今後も資格取得を推奨し、目標を持って働いていけるように努めていき たい
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>自宅や入院先の病院で面談の機会を持ち、話をよく聴いている。ご見学をお勧めし、ご本人が納得して不安なくここでの生活がスタートできるように支援している</p>		見学を勧め、これからの生活の場を見てもらっている。不安に思っている 事やこれまで楽しみに行っていた事等の内容を聞き、具体的な生活援 助を提案している
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>ご家族の思いを良く聴くようにしており、不安な事や困っている事を受け止め、一緒に解決できるように努めている</p>		ご本人が納得した上で無理のない入所ができるように見学や体験を勧め ている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	担当者が相談内容を判断し、他のサービス利用が適切と思える時にはそのように伝え、相手方のサービス担当者にも連絡するなどしている。ご本人やご家族の気持ちを考え、出来るだけ添えるように対応している		ご本人とご家族の意向を良く聴き、他のサービス利用も含めて検討し、対応を図っている
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居希望がある時にはご家族と共に十分に話し合い、事前にご家族やご本人にホーム見学を勧めている。入居の時に少しでも馴染みになっているよう、お茶を飲みながらお話しする機会を作ったり、行事への参加を勧めている		ご本人、ご家族の心情を考慮しながら安心してサービスを開始できるように対応していきたいと思う。何度か体験を重ねたり、一緒にお食事されてからサービスを開始された方もいる
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	昔の体験談や、生活の知恵を聞き、教えてもらうという姿勢で接している。人生の先輩として接するように心掛けている		魚や草花の名前、調理方法、ことわざなどを聞き、教えてもらっている。今後も共に学び、共に支え合う関係を継続していきたい
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	夏祭りなど、催しにお誘いしてご家族と一緒に楽しむ機会を設けた。お出かけの機会を作って下さったり、携帯電話で、いつでもご本人の相談に乗って下さるご家族もいる		ご家族の協力を得ながらご本人を共に支えていけるように努めていく
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族関係の理解に努め、お互いに対する思いを確認しながら、良好な関係が築けるように支援している		入居の際に家族関係、友人関係、交流関係を確認し継続出来るように支援している
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族の協力のもとで、以前からの病院を継続したり、ドライブや外食を楽しんだり、お気に入りの美容室へ出掛けたりされており、ご家族との連絡の仲介を行なっている。携帯電話をお持ちになり、いつでも連絡が取り合えるようにしている方もいる		ご家族の協力を得ながら、ご本人の希望に添って継続して支援していく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ご利用者間の相性や個々の性格に配慮しながら、気の合う仲間作りの支援をしている。また、お互いに支え合う関係はできており、それを支援している		一緒に家事仕事をしている時や、余暇活動の際に話題を提供して、会話の橋渡しを行なっている
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービスが終了しても相談事などを受けている		入院などによる退所時には、次の行き先が決まるまで、病院・ご家族と連絡を取り合っている
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望や意向など、その都度聞くように努めており、聞く事が困難な時には表情や動作から思いを探り検討している。入居時にご本人、ご家族より生活歴を伺い、その人らしい生活が継続できるように支援している。		小鳥のお世話を生きがいにされていた方にはお部屋で継続して飼ってもらっている。今後も趣味活動を応援し、個々に合ったケアが行なえるように職員間で話し合い検討していく
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人、ご家族より生活歴や嗜好などを聞き、フェースシート・インフォメーションシートとして記録している。また、今までのサービス利用の経過も把握に努め、情報を元にその人らしい生活が送れるように支援している		その都度、職員が聞き取りした内容を申し送りの中で共有している。今後もご本人の好みや習慣を大切にしていきたい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個々の一日の流れを把握して、お声がけや見守りをしながら心身の状態を確認している。ご自分で行なえる事はご自分で行って頂き、有する能力を活用出来るように支援している。申し送りノートや会議などを利用して、日々の様子を職員間で共有できる様にしている		毎日のバイタル測定で、健康状態に留意し、職員間で情報を共有しながら現状の把握に努めている
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人、ご家族の意向を確認し、心身状態の変化を見ながら個々に合った介護計画を作成出来るように職員間で話し合っている		担当者会議で検討して作成している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護支援専門員の管理のもと、三ヶ月ごとに介護計画の見直しを行なっている。担当者会議を開催し、モニタリングをして現状に即した計画作成に努めている。尚、心身に変化が生じた場合は期間に関係なく見直しを行なっている		ご本人、ご家族と相談しながら、現状に適した介護計画を作成できるように今後も努めていく
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護計画に基づき、一人ひとりの様子を毎日記録に残している。モニタリングチェック表を活用したり、サービス担当者間での話し合いを介護計画見直しに活かしている		申し送りノートなどを活用して日々の情報を交換・共有している
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	リビングやお部屋、中庭、散歩道など、自由に利用してもらっている。宿泊を希望される方にはゲストルームを用意してある。ご家族の要望でご本人と一緒に居室に泊まり、一晩過ごされたご家族もいた。		今後もご本人やご家族のご要望に応えられるよう柔軟な姿勢で対応していく
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員の方は運営推進委員会へ参加している。消防による救急救命講習・避難訓練は定期的開催。小学校では運動会などへ招待して下さり、見学に出掛けています。また、幼稚園児が中庭で歌や踊りを披露して下さい、楽しい交流の場を持つ事ができた。茶道教室や歌会、指圧マッサージもボランティアの協力を得る事ができている。今後も地域資源と協働しながらご本人がより良く暮らしていけるように努めていく	○	民生委員さんよりご紹介いただいた、子供会(地域の小学生)と定期的な交流する機会が持てるよう、話を進めている
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他のケアマネジャーや事業者と連絡をとっている		今後も必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と相談を行なっていく
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	近くにある地域包括支援センターに連絡し、必要時に相談している		地域包括支援センターの職員が運営推進委員会に参加して下さい、その中で成年後見人制度について説明してもらい、お話を聞く事ができた



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	協力病院へ移行するか以前からの病院を継続するかはご本人、ご家族に確認し、ご希望される受診や往診が行なえるように支援している		契約時にご本人、ご家族にご意向を確認させて頂き、個々に合わせた医療受診が行われるように支援している
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力病院の医師に相談している。専門医の診察が必要であれば対応も行っている		協力病院では優先的に診療する時間を設け対応してくれる。主治医に相談しながら適切な治療が受けられるよう今後も支援していく
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	同敷地内の事業所に看護職員がおり、日常の健康管理をしている。また、利用者様の体調で何か心配な事があれば、協力病院(内科、整形外科、歯科、精神科等)の看護師に相談し医療活用の支援を行なっている		協力病院の看護師に相談しており、医師との橋渡しを行なっている
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時は情報を提供し、入院中は病院やご家族から経過の状態を知らせてもらい、連携して早期に退院できるように努めている		ご家族、病院と連絡を取り合い、今後も早期退院に向けて情報交換をしていく
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	主治医、ご家族と早い段階から十分に話し合いをして方針を決めている	○	重度化や終末期に向けての指針を検討中である
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ご本人、ご家族の意向を十分にお聴きして主治医とも相談しながら一番適した環境で安心して過ごせるように支援している		ご本人に合った環境で最適なケアを受けながらより良い生活が送れるように、全体の会議で検討・準備を行っている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	生活習慣を継続出来るようにご本人、ご家族と話し合いをしている。ダメージを極力少なくできるように情報交換に努め、ご本人やご家族が納得のいくまで、見学にも来てもらっている		以前の暮らしや環境が少しでも継続出来るように、家具や仏壇、食器など慣れ親しんだ物を用意してもらっている
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	人生の先輩として尊敬の念を忘れないように心掛けて接している。記録はご本人が話したことをそのまま記録するようにしている		個人情報保護に関しては社内研修で勉強する機会をもった
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	ご自分で決定出来るように分かりやすくお伝えしたり、問いかけたりしている。多くの選択肢の中から選んでもらったり、2種類の中から選んでもらったりと、質問はその利用者様に合わせて自己決定が行なわれるよう努めている		思いを表す事が困難な場合には、ご本人の思いを会話や動作から汲み取り対応している。趣味活動や理美容の利用など、利用者様の希望を取り入れた支援を行なっている
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事や入浴、催しへの参加など、ご本人の希望・ペースに合わせて対応している		希望に合わせ、一人ひとりのペースに合わせた対応を行い、自由に過ごして頂けるように支援している
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	ご家族の協力のもとで昔から通っている美容室へ外出したり、訪問理容を利用するなど、ご本人の希望を取り入れて支援している		季節・生活パターンに合わせた着替えを見守りしており、おしゃれのアドバイスを求められた時には一緒に楽しんでいる。催しのある際には希望を取り、お化粧をさせていただく事もある
54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	嫌いな物が出た場合には他の物を提供したり、盛り付けの量の調節、食事のペースなど、個人の好みに合わせた食事が出来るように支援している。食事の準備や後片付けは職員と一緒にやっている。中には、日課として行って下さる方もいる		何が食べたいかなどの希望を聞き、ある材料で工夫し調理している。季節や行事に合ったメニューも提案し、美味しく食べられるように努めている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人ひとりの希望に合わせ、牛乳や青汁、コーヒー、お菓子、果物などをご家族の協力のもとで提供させてもらっている。お茶を点てる趣味を持っている利用者様にはご自分で点てて飲む事が出来るように支援している		以前は喫煙される方がいたが、現在はいない。好みの物を個々に合わせて日常的に楽しんでもらっている
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	トイレ誘導や声掛けが必要な方にはさりげなくサポートしている。失禁による不快感を軽減し出来る限り、トイレで排泄する事が出来るように支援している		排泄のリズムをつかめるように、介護記録には分かる範囲内で記録している。定期的に誘導させてもらったり、自尊心に配慮した声掛けを行なって、失禁による不快感の軽減に努めている
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	その日の体調や気分、ご本人の都合に合わせて入浴してもらっている。お一人で入られる方や見守りの中で入られる方など、一人ひとりの希望に沿って支援し、入浴を楽しめるように努めている		お湯に浸かる時間は個人のペースに合わせているが、身体への負担が考えられる場合はお声をかけさせてもらっている
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活リズムや体調に合わせて、休息を取れるように支援している。夜間は巡視にて安全の確認を行い、安心してゆっくりと休めるように見守っている		夜はリビングでテレビを観て過ごされる方、自室で読書やラジオを楽しまれる方など、ご自由に過ごしていただいている
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入所の際に、ご本人やご家族から生活歴や楽しみ事を伺うようにしており、一人ひとりに合わせた楽しみ事が行なえるように支援している		読書や茶道、家事手伝い、小鳥のお世話など、個々に合わせた楽しみ事が行なえるように支援している。また、出来る事、得意としている事はどんどんと行っていただき、残存能力の維持に努めている。ボランティアの方々の力を借りながら楽しみ事が増えていくよう今後も努めていく
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人の希望に沿えるように、ご家族と相談し、金額が大きくなりすぎない程度で所持してもらっている		どこに置いたか忘れてしまう事もある為、ご家族と相談しながら対応している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	お散歩に出掛けたり、中庭で日光浴をするなど、外に出る機会を持っている。ご家族の協力の下で外食をしたり、自宅で過ごす機会を持つ事ができている方もいるが、全ての方までとは至っていない		ホーム周辺の散策、近隣へのお散歩にお誘いしている。歩行が不安定な方には車椅子を使用いただき負担を軽減している
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	インフルエンザ流行により、毎年恒例のお花見や紅葉狩りなどの行事は、予防の為に中止となった。ご家族の協力の下で、お墓参りや外食、お買い物などに掛けられる方もいる。小学校の運動会見学では全員ではないが参加する事ができた	○	外へ出掛けられるような機会を多く持てるよう取り組んでいきたい
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族やご友人宅へ電話を掛けたい時はいつでも掛ける事ができる。希望により携帯電話を持たれている方は自由に連絡を取り合い、会話を楽しんでいる。ご家族の協力の下で年賀状や手紙のやり取りをされている方もいる		手紙をポストに出したり、電話番号を聞き、つなげるなどの支援を行なっている
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽に訪問していただけるように笑顔でお迎えし、フロアや居室などでお茶を飲みながらゆっくりとお話していただけるよう支援している。ホームの催しなどがある時には一緒に楽しんでもらえるようお誘いしている		いつでもご面会に来ていただけるようにとお伝えしており、帰られる際には利用者様と一緒に玄関まで見送りをさせてもらっている。ご家族や知人の面会が週に2回以上ある方もいる
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に身体拘束廃止推進委員会を開催し、話し合いを行なっている。また、内部研修においても学ぶ機会を持ち、身体拘束をしないケアに取り組んでいる		今後も継続して身体拘束をしないケアに取り組んでいく
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間は防犯上施錠しているが、日中は開けている		夜は、遅番が退社後に掛けている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員間で様子を把握し、情報を共有しながら安全への配慮を行なっている。居室で過ごされる事が多い場合にはさりげなく訪室し、お話をしながら様子の確認をしている		健康状態の把握、安全の確認に努めている
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ご本人の希望を聞き、状況を見てお渡ししている方もいるが、基本的には職員が管理している		ご家族と話し合い、了解を得ている
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故報告書やヒヤリハットを作成し、今後の対応について検討している。また、内部研修で事故防止について学んでおり、マニュアルも作成してある		急変時や事故発生時に、すぐに対応できるように今後も社内研修などで学ぶ機会を作っていく
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	事故発生時に備え、救急救命の講習、研修を消防の協力の下で行なっている		内部研修の中でも学ぶ機会を作った
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練、自主訓練、夜間避難訓練などを行なっている。隣接しているグループホームと協力し安全に避難できる体制を整えている		定期的に避難訓練や救急救命の受講を行っている
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	ご家族からの情報もお聞きしながら、対応策を話し合っている。転倒や誤嚥などの危険性などについては、都度説明し、こちらの対応についてもその都度お伝えしている		主治医やご家族と相談し、ゆったりとした環境で安全に暮らせるよう努めている
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェックやいつもの様子の違いを職員間で確認し、看護師や主治医に相談しながら対応している		毎日のバイタルチェック、食欲、歩行、話し方など、いつもと違いが無いか確認している。あれば情報を交換、共有している
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々の薬箱があり、職員が管理している。薬の説明書は記録簿の中に綴り確認しており、薬が変更になった時には、身体、精神面での変化に十分注意して観察を行なうようにしている		薬が変更になった場合には申し送りノートなどで情報を共有している
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	体操や飲食物の工夫、医師への相談などを行なっている。また、介護記録に水分や排便状況を出来る範囲内で記録し、把握に努めている。		内部研修の中で便秘についての学習会を行なった。中には牛乳や青汁を予防の為に飲んでる方もいる
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後に歯磨きをしていただき、不十分な方には声掛けや一部介助を行い、清潔を保てるようにしている		歯科衛生士の資格を持つ職員に相談する事がある。また、歯科往診があるのでその時に、診てもらっている
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量はおおよそ把握しており、介護記録に記入している。食欲のない方や飲み込みの悪い方など、一人ひとりの状態に合わせてお粥やミキサー食、とろみを付けるなど工夫をしている。盛り付けの量も個人に合わせて対応している		体重の増減を確認しながら、盛り付け量を調節している。嫌いなものが出る場合には他の物で提供し、食事量の確保に努めている
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外部から持ち込まれないよう到来客やご家族の面会時にも手洗い、マスク、消毒をお願いしている。食事やお掃除、汚物処理などを取り決めた感染症マニュアルがあり、それに沿って予防に努めている		手洗いを励行し、一日一回は緑茶にて風邪予防の嗽をしてもらっている。感染症予防については内部研修の他、感染対策委員会においても学んでおり、運営推進委員会においては保健所から得た情報の伝達を行なっている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所、布巾、まな板などは毎日消毒を行い、食材は鮮度の良い物を使用し、賞味期限などを確認している。また、加熱にも注意を払っている		包丁やまな板などの消毒はその都度行うが、遅番の職員が最後の消毒を終え、キッチンチェック表へ記入する事としている。また、冷蔵庫内の消毒は毎週日曜日に定期的に行なっている
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	中庭には芝生や樹木が周りにあり、緑あふれる癒しの空間となっている。畑にはお花や、野菜を植え、玄関には草花を飾ったり、観葉植物を置くなど温かい雰囲気を出せるように努めている		中庭に設置しているテーブルやベンチは散歩の際に近隣の方も立ち寄って下さり、一緒にお茶を飲みながらお話されていく事もある
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の飾りや草花を飾り、季節感を出せるように配慮している。不快な音や、光がないようにその都度、職員が調整しており、快適な環境作りに努めている		ひな祭り、端午の節句、クリスマス、お正月など、季節の飾りを行なった
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビング、食堂、個室などを自由に使用していただき、気の合う仲間同士でおしゃべりを楽しまれたり、個室でゆったりと休まれたりと思いつきの過ごし方をしている		1.2階の移動は自由にされている。気の合う仲間同士でお部屋の行き来をされ、おしゃべりを楽しんでいる
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人の馴染みの家具が配置されるように入所される段階でご家族にお伝えし、支援している		馴染みのある家具や置物、仏壇、写真、衣類、食器などを持参されている
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	お掃除の際に各部屋の窓を開け、空気の入れ換えを行ったり、臭いが気になるようであれば換気扇を回して対応している。温度・湿度計を設置し、適度になるよう加湿・暖房の調整を行なっている		臭い対策としては換気のほかに木炭を置いたり、消臭剤を使用している
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	ホーム内の床は全面バリアフリーで、廊下、階段、エレベーター内、浴室などには手摺りを多く設置している。浴槽をまたげない利用者様には座シャワーを使用している		安全に出来るだけ自立した生活を送れるように、環境作りに努めている。利用者様の身体状況に合わせて食卓椅子を肘付きに変えたりと調整を行なっている
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者さんが安心して一緒に食事準備が行えるように、お箸やお茶碗、テーブル等に名前を付けている。また、お掃除やお洗濯のお仕事も、無理なく出来る範囲でご本人に行なってもらっている。今出来ている事を、維持しながら自信の回復に努め、一人ひとりの能力に合わせた自立した生活を送れるように支援している		布巾縫いや雑巾縫い、アイロン掛けなども職員と一緒に楽しく行なわれている
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	中庭や散歩道にはベンチが置かれ、ゆったりと過ごせるようになっている。畑にはお花や野菜が植えられ収穫を楽しんだり、雑草取りを一緒に行なったりと活動されている。ホーム内喫茶や幼稚園児との交流、子供神輿が来たりと、皆さんが楽しく交流できる場となっている		中庭では夏祭りの開催や子供神輿の見学など、楽しい活動の場となっている。また、冬には雪明りの路に参加した。地域の小学生や民生委員の方々の協力で中庭にオブジェが作られ、幻想的な明かりをフロアの中より楽しむ事ができた



V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない	②
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	②
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	③
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない	②
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	③

